

議員派遣結果報告書

1	名 称	令和 8 年度町村議会広報研修会
2	場 所	東京都 LINE CUBE SHIBUYA （渋谷公会堂）
3	期 間	令和 8 年 8 月 28 日（金）
4	内 容 ・ 成 果	<p>講義 1：住民と議会をつなぐ広報デザイン術 講師：村田大地氏（自治体・議会広報アドバイザー）</p> <p>講義 2：議会広報紙のビフォーアフター 講師：丘村奈央子氏（エディラボ インタビューライター）</p> <p>講義 3：山形県川西町議会における議会広報の取り組み 講師：橋本欣一氏（山形県川西町議会 広聴広報常任委員会委員長）</p> <p>内容：</p> <p>村田氏の講義では、議会広報が抱える「発行が目的化している」「平等掲載主義で読み手が置き去りになっている」「デザインが軽視されている」「編集を学ぶ研修の機会が少ない」という 4 つの課題が示されました。その上で、奈良県王寺町の町広報紙と議会だよりのリニューアル事例について、狙いと成果を具体的に説明していただきました。読者層を明確に定め、編集方針を「町民の参加」「脱・報告書」「読みやすいレイアウト」「文字を少なく写真を多く」の 4 点に整理した結果、住民アンケートで広報紙を読む人が約 9 割に達し、議会広報コンクールの入選や議会中継の視聴数増加といった成果につながったとのことでした。</p> <p>丘村氏の講義では、広報紙が読み手に届き、深く伝わるまでには「デザイン（手に取りたい）」「見出し（読んでもらえる）」「情報（分かりやすい）」の 3 つの段階があり、特に前 2 者の見直しが効果的であるとの指摘がありました。余白とメリハリによって記事の区切りと構造を一目で示すこと、見出しは端的かつ大きく表現すること、デザインと見出しを生かすために情報量を絞り込むことが要点であり、実際の他町議会だよりを題材としたビフォーアフターの解説をいただきました。</p>

	<p>橋本氏の講義では、全国広報コンクールに16年連続で入賞している山形県川西町議会の取り組みが紹介されました。編集作業は議員のみで担い、発行までを5回の委員会で完結させていること、広報懇談会・広報モニター制度・広報アドバイザー制度の3つの仕組みによって紙面の品質と継続性を担保していることが特徴です。特に広報モニターを「地域と議会をつなぐ能動的な発信者」と位置づけ、その声を紙面に掲載している点が印象に残りました。一方で、質の高い広報には多大な労苦が伴うため、広報委員を孤立させず議員全員で負担を分かち合う必要があるとの課題提起もありました。</p> <p>成果：</p> <p>3名の講義を通じて、議会だよりの改善が紙面デザインの工夫にとどまらず、編集の体制づくりや住民参加の仕組みづくりまで含めた取り組みであることを確認できました。本町議会だよりは第79号からwebアンケートによる意見募集を開始したところであり、今後は寄せられた声を次号以降の企画や構成に反映させる仕組みづくりに取り組んでいこうというタイミングです。あわせて、一般質問のページを中心に、見出しの大きさや配色の統一、記事の区切りの明確化といった今回学んだ技術を順次取り入れ、中学生から高齢者まで読みやすい紙面をめざしていきたいと思います。</p>
--	---